NRU-east
National Railway Workers' Union

ダイジェスト版　2025年
No. 345　11月4日

国鉄労働組合東日本本部
港区新橋5-15-5　交通ビル7F
発行責任者　伊藤　隆夫
編集責任者　武田　幸喜

声かけて
仲間とTUNAG
拡大へ

## 株主や投資家のみなさんには「業績予想を上方修正」

## 社員には「本業の力を示す営業利益が20億円の減益」

# 上方修正の源を生み出したのは現場のすべてのグループ社員だ！

10月30日、会社は2026年3月期第2四半期を公表し、「①営業利益が計画を大きく上回って推移した。②通期業績予想を上方修正する。③今期の配当予想の62円から、業績予想の上方修正を踏まえ、通期70円に増配する。」と、大々的に株主や投資家のみなさんへのメッセージを発信しました。

**ＪＲ東日本の新たな通期業績予想** ……《旧業績予想との差異》

| | | |
|---|---|---|
| ・営業利益 | 3兆0,580億円 | 《+350億円》 |
| ・営業収益 | 4,050億円 | 《+180億円》 |
| ・経常利益 | 3,410億円 | 《+180億円》 |
| ・親会社株主に帰属する当期純利益 | 2,370億円 | 《+100億円》 |

## JR東日本単体の営業利益20億円の減益を強調して、社員・家族の幸福の実現を妨げる理由にはさせない！

会社の現状認識では、「好調な鉄道利用に支えられ増収であったものの、収益を上回る費用増により営業利益は20億円の減益となった。通期業績予想は上方修正したが、費用増を上回る収益増を前提したものであり、定期収入はコロナ前には及んでいない。」と、定期外収入の確保が大きな経営課題であるとして、慎重な姿勢を崩しませんでした。

上方修正につながったのは、現場のグループ社員の果敢な取り組みがあったこその結果であり、会社は年末手当でしっかり応えるべきです。

# 3.2ヶ月＋10万円の回答を強く求める！